第五回栄区歴史双六探訪 副題 栄地域史蹟探究

平成17年3月14日(月)鍛冶ヶ谷バス停9:50集合 雨天3月21日に順延

出発時間 10:00 10:05 10:10 10:15 10:20 鍛冶ヶ谷バス停一鍛冶ヶ谷名主小岩井家一駒形観音堂跡一駒観堂橋一石橋(茶道橋)ー 10:30 10:50 10:55 11:00 11:10 みのくちー(1)長慶寺ー黒鍬の堰ー馬頭観音道標ー本郷小学校校庭遺跡ー 11:20 11:25 11:40 -----中野の力石ー桂橋(昔は浮き橋)ー回国供養塔ー定光寺跡ー阿闍利法印筆子塚跡ー 11:55 12:00 12:30 12:40-旧天神橋(上耕地橋)-弥生住居跡-皇女御前社-[昼食]-法界寺跡-上臈塚-13:00 13:20 1330 13:35 (12)人面把手時出土地一権現森御陵社跡一出羽三山供養塔一公田名主高田家跡一 14:00 14:10 14:15 亀の子山一茶別当橋庚申塔ー信濃谷戸力石一荒井沢石造物群ー焰魔堂跡ー 15:00

(11) 荒井沢市民の森(皆城山地蔵尊・在長慶寺)

ひとくちメモ

- ①〇七曲がり下から小岩井家·駒形観音堂·駒観堂橋の間を(南の道)といっていた。
- ②〇鍛冶ヶ谷名主小岩井家 (鍛冶ヶ谷町1-20)

古くからこの地に住み、当主は42代目といわれている。豊翁居士功業記念碑あり、主屋·長屋門·稲荷·横井戸·庭木·蔵、等の跡地説明。

③〇駒形観音堂 サザンヒルズ横浜本郷台B入り口広場辺りにあった。

新編相模風土記P105に〔鎌倉郡三十三観音第十六番札所、公田村駒形観音堂として永林寺に 残る。十一面観音運慶作、高さ一尺五寸を安ず、永林寺持ち古くは中野村に在り、今に堂蹟 残れり〕とある。将棋の駒形の木像にて永林寺保管中。

④〇駒観堂橋(駒形堂橋)

観音堂から下り小独川に係る橋にを古くから駒観堂橋という。

⑤〇石橋(茶道橋) 鍛冶ヶ谷1-32先

道路改修で小独川のバス道に係る石の橋で比較的最近のもの、以前は茶道橋と称しと同様石 の橋で一つ上流に有った、今は暗渠になり橋の面影はない。

⑥〇みのくち(長瀬家の屋号) 鍛冶ヶ谷町29

本郷ふじ山は上質の水が豊富に湧き出す山で別名みのくち山といふ、その山裾の屋敷で豊富なわき水が出るためと、代々田の水口管理をされていた為屋号になったとも云う。

⑦(1)中村山天岳院長慶寺 中野町40

平安末期開山で玉縄にありしが慶長年間(1596~1615)現在地に移る、本尊薬師如来像中野村薬師堂の薬師如来像を安置す。家康鷹狩りの時立ち寄り茶を所望美味なるにより又来るといい後日茶碗を拝領し寺宝とす。

⑧○黒鍬の堰跡 中野町13

猿田川が四号線に一番近くなるところ(弓道場から出て右側)、水車があったという所。 以下は私の想像で何の根拠もありませんが。黒鍬は江戸城警備・防火の使役で将軍出行きの 時は荷物運搬人も兼ねていた、長慶寺長光寺の家康伝説もあり天領であった、何かの理由で 黒鍬者ここに堰を作ったのかもしれない。又この地が製鉄に関係があり黒い鍬を作っていた のかも知れない。など考えられないか、とすれば興味深い名前である。

90馬頭観音道標

金沢道と横浜道の分岐点の道標、弘化5年造、右金沢・杉田・峰道左横浜道。

⑩〇本郷小学校校庭遺跡

この遺跡は市川規平先生により古墳時代前・中(500~600年頃)の住居祭祀跡が発見された、このすぐ上手(現本郷パス停辺り)に7世紀白山神社が創建されたという。この地は郡家跡だったろう=神戸でこの社が八軒谷戸の奥に神戸の地名と共に移転したと思われる。

⑪〇中野の力石 中野町1070

長瀬貢様の屋敷内に大きな力石と少し小型の手玉石がある。ご先祖の左近さんと鎌倉関谷の右近さんは共に力持ちでお互い競い合っていたと云われている。南側の山は最近左近山公園として整備された。

(12)〇桂橋

独川がしばしば暴れるので浮き橋とし鉛底橋だったという。

⑬○回国供養塔 油川小長谷橋北側

昔は南側に有った、定光寺住職による供養塔。

(P)〇真書宗龍淵山定光寺跡 公田町1612 證菩提寺の末寺、今は廃寺となる。

⑤○筆子塚(権太僧都阿闍利法印堅□(蒲鉾型角柱碑塔身49×21.5×16台座8×31×27)) 定光寺住職で寺子屋を開いていた。横浜市文化財調査報告書に元文四己未と記載あり、4~ 5年前から所在不明、本郷の筆子塚は3ヶ所(当所・小菅ヶ谷長光寺の了党・上郷○○家墓 所の桃岸斎)でその1つが無くなった、早期に復帰させたいと探している。

16〇旧天神橋(上耕地橋) 公田町1065先

この橋とが本来の天神橋である。橋の北詰め川下側に天神様が祀られていた所からこの名が 有った(今は無い)。道真が流配地に出立する時刻が一番鶏が鳴く時刻であっとこらから この近辺では鶏を飼わない風習が有ったと聞いている。

⑪〇弥生住居跡

一昨年7~8月頃宅地造成に先立つ調査で縄文期の住居跡が2戸発掘された、同地域の試し 堀で更に数個の跡が確認されている。これから訪れる人面把手土器発掘地点と目と鼻の近く で集落の規模に興味のあるところだ。

18〇皇女御前社 公田町1530

平安時代桓武天皇の皇子葛原親王は朝廷の争いを逃れて旅に出た、妃の照玉姫が病に罹り公田の里に留まった、天長元年(824)姫は病が再発し亡くなられた。村人は悲しみここに祀った。

⑩〇法界寺跡 天仏山法界寺 公田町627

200 上臈塚 公田町627

照玉姫皇女と侍女を祀ったという。又一説に義仲の子義高とその許嫁頼朝の娘大姫義仲の死 後討ち取られ巻き込まれた十余人の女房達がここで斬罪され葬られたともいう。

②①(12)人面把手土器出土地 公田町1536先

縄文中期の祭祀使われた土器での一部で日本最大の人面把手土器と考えられている。

②○権現森御霊社跡 公田町1391以停公田団地下と管理棟の間

明暦3年建立、社跡は森を開発して団地造成の時地元の要請で憩いの場になった。御霊社は森の続き(団地の北西)臼井さんの竹藪に鳥居などあるという。

230出羽三山供養塔 公田町754先

天明7年建立、高田家墓地、近年整理され供養塔が土留めのよう壁代わりに使われ側面に刻まれた出羽三山(湯殿山・月山・羽黒山)の文字が判読困難になった。

240公田名主高田家跡地

高田家墓地斜め前の崖下荒井沢川沿い、一時公民館として使われたが、現在は空き地である。

②○亀の子山 公田町896先

公田小下と公田ハツの間に位置する小山で公田村の茅場の一つであった。

20〇茶別当橋庚申塔 公田町1009

ショケラを下げる青面金剛庚申塔宝永七年(1710)とある、昔は筋向かい角にあった。

②)〇信澹谷戸力石 公田町1026

信濃谷戸から50m程上流の工務店敷地内に移っている。

28〇荒井沢谷戸石造物 公田町1051先

信濃谷戸入り口斜め前の崖を堀込み青面金剛童子塔他4基を祀る。

290 焰魔堂跡 公田町1051

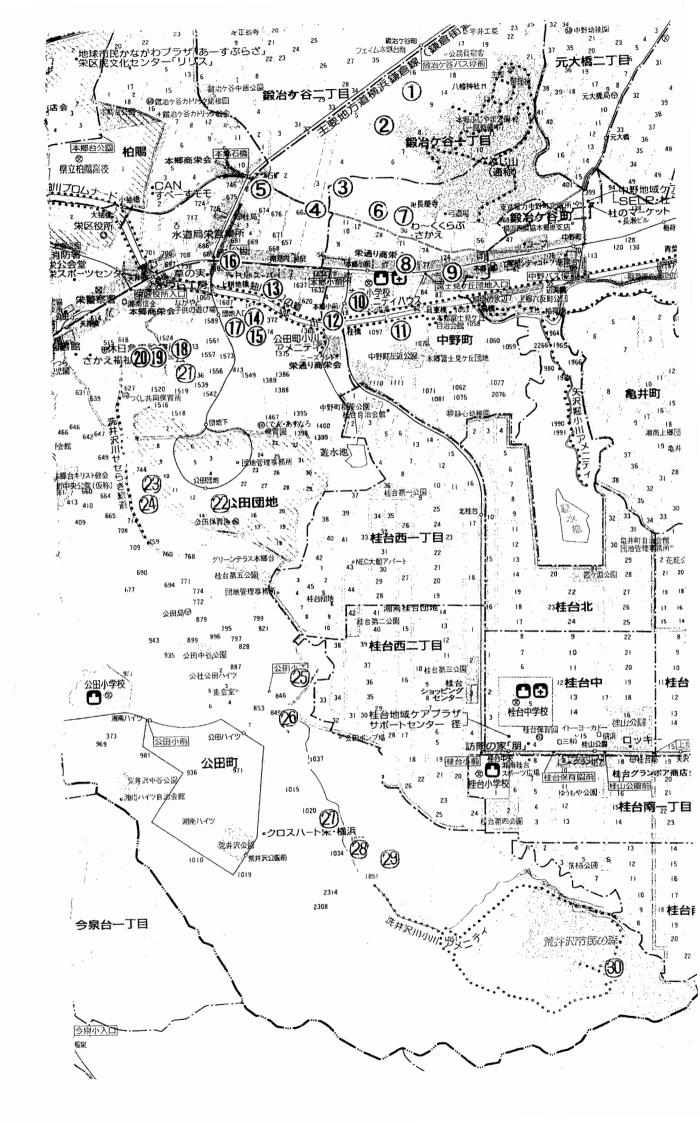
今は近隣地元の墓地になっている。何時頃か尼さんが住んでいたという、お堂は昭和初期には無かった様だ。裏手の山の先に閻魔の辻という分かれ道があった。

③(11) 荒井沢市民の森(皆城山地蔵草・在長慶寺)

平成10年に開園した。池・湿地・丘陵・樹林・断崖と変化に富む緑地帯、手入れの良い里山になっている。頂上からランドマークタワーや遠く丹沢・奥多摩の山々が見渡せる。裏の尾根道は鎌倉市との境界になる。

[参考]

案内コースから外れて馬頭観音石碑が数カ所にあるが今回割愛した。公田は岩瀬・桂·中野 ・に囲まれた地域で大方が山間の為か、道標が一つも見あたらない、存じ寄りの方が居られ たらお教え頂ければ幸いです。(木島)



本 0) 近ね と関谷 の 右近に

中

ましたが、 の左近に 江 戸 0) っのです。 関谷におりました。 負けず 中に、 たい の を 左近 名乗 劣らずの んな力持ちでした。 め ころ、 る 一族 名前は、 力持ちの若者が、 とい が う若者が 右近 ま また、 おり 中

左近と右近は、 て きて力くら 本郷 な べをしま でお した。 祭 大きな力石を持ち りがあると、

> 上げた したり 分れ たりし して、 り、 人々は、 声援を送っ た Ļ١ 左近の の強さを競 つも大喜 くて丈夫な た V り、 びで きと右近 の 棒を ん つ た の ね Q_{ν} で 手を ţì

たりする間 たが、 左近と右近は、 おたが 柄だっ たの 励 て ま です ŋ し合ったり、 の のよ ときは 友達 争 助け 同士で 相 手 っ で

江戸 力持ちで、 の将軍様 本郷の村 の耳に う ちだけで ても仲のよ た。 その評判が、 なく、 りました。 左近と右近 近郷近王に Þ が の 7

て ねがね、 立派 な家来をたくさん欲 さ つ 左近と右近を Į,



を合わせて役目を忠実に果たしました。 江戸へ召し出 12 です。 江戸 ま の した二人は、 大門を守る大切 それ な からも

きました。 かげで二人は、 と関谷に、 とりました。 やがて、 ってくれた」とねぎらい、 「長い間、 それぞれの領地を与えました。 若さを誇った左近と右近も、 将軍様は、 一生を安楽に 大切だが地味な仕事を、 年老いた二人を間近 暮らすことが 故郷の中之 で お

を去りま なり、 長瀬 の左近は、 し た。 関谷の右近も、 左近の 寛永四年 お墓は、 その二年後に (一六二七) 今でも 中 17 の ₩

の長瀬家の屋敷内に あ りま す。